

平成24年6月定例議会は、6月8日に開会して一般会計補正予算、特別会計補正予算などの議案を審査し、全議案原案通り可決し（反対者なし）20日に閉会しました。



鹿追町の主力作物の馬鈴草の花

補正予算

1億1千8百90万円を追加し、一般会計の予算総額を58億7千3百90万円としました。

○オフセット型ポテトハーベスター導入補助金（農業振興）  
1千2百万円

馬鈴薯の収穫作業には多くの労働力と時間を要するため、作付けが減少しています。高性能のハーベスターの普及により作付け面積の拡大をはかります。  
事業実施期間  
平成24、28年度（5年）  
導入計画  
年間6台 合計30台  
助成額  
1台当たり2百万円

○全自動乗用野菜移植機導入補助金（農業振興）  
2百万円

キャベツの作付け振興と作業効率向上を図ります。  
○生乳生産性向上対策事業助成金（農業振興）  
4百67万円

カビ毒による乳牛の健康被害を防止して、生乳生産

の維持向上を図ります。  
○瓜蓊地区バイオガスタンク関連予定地取得費  
1百48万円  
○廃屋解体撤去事業補助金（町民生活）  
1百万円

景観保持や生活環境の整備、犯罪や災害の未然防止を図るため、廃屋の解体撤去費用が50万円を限度に補助されます。  
○旧西原施設の修繕（施設管理）  
2百57万円

北瓜蓊にある旧西原施設の宿泊ロッジを修繕して、都市や震災被災地の子ども受け入れなどで活用できるようにします。  
○柏木区児童公園整備（公園整備）  
5百60万円

電源立地地域対策交付金事業で児童公園を整備します。  
○子ども宿泊体験交流補助金（企画）  
2百万円

都市や被災地の子どもを受け入れに取り組みます。  
○5月大雨災害復旧費  
2千85万円

陳情

住民の安全・安心な暮らしを支える交通運輸行政の充実を求める産業厚生常任委員会提案

提出者  
国土交通労働組合北海道航空部級別分会  
執行委員長 桐生 寛則

震災復興と被災地対策をはじめ、①住民の安全・安心な交通運輸を国が直接実施すること②住民のための交通運輸行政確立のため地方運輸局、支局の充実等の住民の安全・安心な暮らしを支える交通運輸行政の充実を求める陳情を採択しました。

意見書として衆参両院議長、内閣総理大臣をはじめ関係大臣に提出しました。

推薦

人権擁護委員に大前眞優子氏を推薦

西科隆氏の後任の人権擁護委員に大前眞優子氏（緑町2）の推薦（新任）提案があり、これを適任としました。

意見書

基地対策予算の増額を求める基地対策特別委員会提案

基地関係市町村は、基地所在に伴う特殊な財政需要の増大等により、大変厳しい財政状況にあります。

総務省所管の基地交付金・調整交付金は、平成元年以降3年毎に増額されてきた経緯を踏まえ、平成25年度予算において増額することともに、基地対象資産の拡大と、基地周辺対策経費の所要額の確保、補助対象施設・範囲の拡大等、適用基準の更なる緩和を求めるものです。

意見書については、全会一致で可決され、衆参両院議長、内閣総理大臣をはじめ関係大臣に提出しました。

条例

環境保全センター基金の設置

5月3～4日の大雨は140ミリを超え道路や畑に被害がありました。土木施設災害や農業関係の復旧は50件のほりです。

良好であり剰余金が発生している状況です。  
環境保全センター基金条例の制定により、これまで農業全般の振興を目的とする農業振興基金に積み立てていた剰余金を条例に従い、鹿追町環境保全センター基金として適正に管理運用を行うものです。

決算剰余金

平成19年度～22年度  
2千4百71万円  
（農業振興基金積立）  
平成23年度決算剰余金  
2千9百44万円  
基金費積立金  
5千4百15万円

鹿追町環境保全センター（バイオガスタンク）は平成19年10月より稼働し、今年で5年目を迎えています。昨年は2万8千トンの消化液を散布しており、発電は2百15万kwhとなっています。国においては、再生可能エネルギーの全量買取りを7月1日から開始し、新設と既設の電力施設からの買取りが始まりました。現在稼働している環境保全センターに関する収支は

また、鹿追町のバイオガスタンクの取り組みは各方面から高く評価されています。このため、町環境保全センターは、年間1千人



鹿追町環境保全センター

